

レーチェン＝クンガーゲルツェン著 『カーダム法源明灯』考（Ⅱ）

原 田 覺

(VI.)⁷⁾ 第九品が記載する人物の伝記の書出しは以下の如くである。[gSer gliñ pa Chos kyi grags pa] (573-1;251-5;289b3), mkhan chen bDe ba dpal bzañ po (581-11;264-3;293b5), 彼のお心[の]ご子息[たる]mkhan chen dKaḥ bshi pa [Grags pa gshon nu dpal bzañ po] (582-19;266-3;294b2), mkhan chen byañ chub sems dpaḥ bSod nams grags pa (585-9;270-2;295b5), 彼の弟子[たる]rgyal baḥi sras bo Thogs med bzañ po dpal [shes] (591-14;279-4;299a1), rGya ma ba dGyer Yon tan ḥod [de] (605-22;300-6;306a4), bla ma dPal rin pa [de] (607-1;302-4;306b4), ḥPhags chen ri pa[s] (609-4;305-5;307b5), chos rje Don grub dpal bzañ po (609-7;305-6;307b5), chos rje Blo gros dpal bzañ po (609-20;306-5;308a3), bla ma rje btsun Red mdaḥ ba [shes] (611-19;309-4;309a2), 彼のお心[の]ご子息[たる]sKyes mchog pa [shes grags pa] ḥPhags pa klu sgrub [de] (634-21;345-2;320b5), ḥGro baḥi mgon po dKaḥ bshi pa [dKon cog gshon nu] (636-1;346-6;321a6), skyes bu dam pa ḥphags pa Don shags pa chen po [shes] (637-21;349-5;322a6), その上人のお心[の]ご子息[たる]ḥphags pa Sañs rgyas rin po che [shes] (640-5;353-1;323b2), [de la] Don shags pa gShon nu smon lam [gyis] (649-3;366-4;328a3), Don yod shags pa[hi] の相承者 (649-16;367-3;328a6), 彼のご子息[たる]Shañ ston dGra ḥjigs (651-9;369-6;329a5), [des] mkhan chen ḥZid pa rTsi ḥdul ba [la] (653-15;373-3;330a6), 彼の弟子は chos rgyal lDog lod pa [yin] (654-19;375-2;331a2), [ḥdi la] rin po che Śes rab ḥbum pa [shes] (659-5;381-4;333a3), [de la] rgyal baḥi sras po Thogs med bzañ po dpal [shes] (659-16;382-2;333a6), 彼の弟子[たる]mkhan chen rin po che bSod nams bzañ po (663-18;388-2;335a6), [de la] Bya ḥdul ba ḥdzin pa chen po [de] (668-11;395-2;337b5). 以上の人物の伝記を記し、末尾で著作題名を示した上で「bKaḥ (16/17) gdams[派]の零細な教戒の上人[たる]相承者の品であって第九なのである | |」(673-16~17;402-5~6;340b1)と品名を付している。

VII. 第十品が記載する人物の伝記の書出しは以下の如くである。dPal Mar me mdzad ye śes がご誕生になってから三百と七十五年が(1/2)過ぎた時に | bKaḥ

レーチェン＝クンガーゲルツェン著『カーダム法源明灯』考（Ⅱ）（原 田）（83）

gdams gShuñ pa[r]と著名な書籍を真直ぐにする様に為さり(2/3)且つ gDams nag pa[hi]の教授によっても莊嚴された[方で仏]教の主人[たる]Blo(3/4) bzañ grags pa[hi] dpal [shes] (674-1;403-1;340b1), [de la] Tsha kho ba mkhan chen Nag dba[ñ] grags pa[s] (709-10;453-5;357b6), mDo stod pa Grags pa blo gros (710-5;454-5;358a4), rje btsun bZa[ñ] pa skyo[ñ] [gis] (710-10;455-1;358a5), Śar pa Bya[ñ] sems Rin cen rgyal mtshan pa (710-16;455-3;358b1), bla ma rtogs ldan ḥJam dpal rgya mtsho ba (710-22;455-5;358b2), ご子息の年長者[たる]rGyal tshab dam pa Dar ma rin cen (722-13;472-5;364b5), ご子息の第二の年長者[たる]ḥdul ḥdzin chen po Grags pa rgyal mtshan (726-8;478-4;366a5), chos kyi rgyal po dGe legs dpal bza[ñ] po (731-15;486-3;369a1), chos rje Sha lu ba Legs pa rgyal mtshan (734-17;490-6;370b2), chos rje Blo gros chos skyo[ñ] ba (735-12;492-1;371a1), chos rje Chos kyi rgyal mtshan (736-5;493-1;371a5), chos rje Blo gros brtan pa (736-23;494-2;371b3), chos rje Rab ḥbyams pa sMon lam dpal Legs pa[hi] blo gros (737-15;495-2;372a1), chos rje rJe dbon Blo bza[ñ] ñi ma (739-15;498-2;372b6), mkhas pa chen po Ye śes bza[ñ] po (741-2;500-2;373b3), Sems dpal chen po Kun dgaḥ bza[ñ] po (741-11;500-5;373b5), ḥJam pa[hi] dbya[ñ]s bKra śis dpal ldan pa (743-17;504-1;375a1), chos rje Grva chuñ Yon rgyal ba[s] (746-20;508-5;376b1), slob dpon chen po Kun dgaḥ bzod pa (747-13;509-5;376b5), Byams chen chos rje Śākya ye śes (748-4;510-4;377a2), Bya[ñ] sems Rva sgre[ñ] ba Śākya bsod nams (748-18;511-4;377a6), Chos rje Guñ ru [shes grags pa] mtshu[ñ]s med rGyal mtshan bza[ñ] po (749-19;513-1;378a1), gnas brtan Chos bza[ñ] pa (750-10;514-1;378a4), Tor ston chen po Nam mkhaḥ dpal ba (750-14;514-2;378a5), rje btsun Śes rab se[ñ] ge (751-14;515-6;378b5), sprul pa[hi] skyes mchog chen po dGe ḥdun grub [shes] (754-1;519-3;380a2), 利益の為に お名前から講説し了り 且つ私の親教師 [たる]Blo gros sbas pa [shes] (758-19;526-4;382a6), rje btsun bla ma bZa[ñ] po bkra śis (807-18;599-2;406b1), mkhas pa chen po Luñ rig rgya mtsho (809-10;601-4;407a5), sems dpaḥ chen po bDe mo tha[ñ] pa Blo gros rgyal mtshan [shes] (814-20;609-1;409b6), [de nas] mkhas btsun dam pa sTobs ldan ḥod zer [gyis] (818-1;613-3;410b1), 利益の為に お名前から講説し了り 且つ mkhan po Grags pa rin cen (818-20;614-4;410b6), Gye re dkaḥ bshi pa [shes] (819-6;615-2;411a2), slob dpon Grags pa bkra śis (819-13;615-4;411a3), sTod Śes rab bza[ñ] po (819-17;615-5;411a3), sMad Śes rab bza[ñ] po [s] (819-23;616-1;411a6), gnas brtan Ḥod zer bkra śis (820-16;617-1;411b3), gnas brtan rGya ma ba dGe ḥdun rgyal po (820-20;617-2;411b4), mkhan chen Bya[ñ] chub dpal (821-9;617-6;412a1), gnas brtan Kun dgaḥ ḥbum (821-16;618-3;412a3), rNog Rin cen dpal bza[ñ] ba (821-21;618-3;412a4),

(84) レーチェン＝クンガーゲルツェン著『カーダム法源明灯』考(Ⅱ)(原 田)

chos rje mGon po byañ chub(822-3;618-6;412a5), 彼[の]後[に]bla ma bsTan pa rin cen(822-9;619-2;412a6), Śar rtse ba Śer ḥbyuñ blo gros(822-12;619-2;412b1), ḥPhags ḥod Yon tan rgya mtsho(822-19;619-5;412b2), mKhyen rab dbaṅ phyug Grags pa bzañ po(823-1;620-1;412b4). 以上の人物の伝記を記し、末尾で著作題名を示した上で「gShuñと gDams naḡ[の]両者の大河が一つに(22/23)集まった bKaḡ gdams gsar ma ba[r]と著名なものの品であって第十なのである | |」(823-22~23;621-2~3;413a3~4)と品名を付している。

最後に後序(824-1~825-16;621-3~623-4;413a4~b6)と、請願偈(825-17~829-21;623-4~629-4;413b6~417a3)と、奥書「『bKaḡ gdams[派]の伝記[集たる]」(829-21/22)bKaḡ gdams[派で]大宝[の如きもの]が明らかになる灯火』と言うこれは | (22/23)勝者(釈迦)の[仏]教[で]三千六百三十一年⁸⁾が過ぎた時に(829-23/830-1)釈迦の比丘[たる]Kun dgaḡ rgyal mtshan が | 上人方の(1/2)仰せに依存し了ってから | 統一的に編集したもの[で]完了した(2/3)のである | | | |」(829-21~830-3;629-4~6;417a3~5)と、版跋「bKaḡ gdams[派の]相承者の伝記[で]大宝[の如き]これは | |rGyal(830-4/5)dbaṅ lha pa Blo bzañ rgya mtsho⁹⁾ が | | 賜命が如何[であれその]通り[に]頭頂で(5/6)良くお考えになって | | 人主[の]お仕事[で]海[の如き]によって版に完成した | |(6/7)これによってまた勝者の[仏]教[で]大いなる宝[の如きもの]は一切の門から一切の方向(7/8)に盛行し且つ増長するうえ永遠に住する様に成れかし | |(8/9)maṅgalam | |」(830-4~9;629-6~630-2;417a5~6)を記載して終わっている。

VIII. 以上が同資料の内容構成の概略であり、ここでは紙幅の許す範囲で、bZaṅ po bkra śis の伝記部分(807-18~809-9;599-2~601-4;406b1~407a5)の内容紹介を行いたい。

伝記の本文は「尊者[で]上人[たる]bZaṅ po bkra śis は | 庚寅 lcags pho stag(1410)の年に La (18/19)stod byañ で父祖[たる密]咒者の家系にご誕生なされた | 幼児の(19/20)時[に]金剛小忿怒[尊]の念誦を為さったので能力が現われ了る(20/21)ことも生起した | それから大学堂にお出でになって | 一切(21/22)智者と | 持律者[と]を上[人の]辺 bla zur として依止した | [三]蔵に就いて(22/23)学習し了ることを為さった | 無畏の弁才が証得されてから | (807-23/808-1)Sa skya[寺] | Sha lu[寺] | rTses than[寺]等で沢山の経巻の游学僧 grva bskor を為さった | (1/2)尊者[たる]Śes rab seṅ ge(1382~1445)に注釈[たる]『灯[作]明』sGron gsal(北京版 No.2650, 2655~9)等の(2/3)釈説と教誨をも沢山に聴聞なされた | 法主[たる]Blo

レーチェン＝クンガーゲルツェン著『カーダム法源明灯』考（Ⅱ）（原 田）（85）

gros (3/4) chos skyoñ ba (1389～1463) と Dags po Kun bkraś pa [の] 二方に『時の輪の続
[の] 注釈』*Dus kyi* (4/5) *hkhor lohi rgyud hḡrel* (北京版 No.2064) 等を沢山に聴聞なさ
たのである | |』と言う記述で始まり、誕生年については『布達拉宮典籍目録』（『目
録』）No.00528, 『班欽桑布扎西全集』（『全集』）の記述（両著作については注5 拙稿, 注6
参照）, また *hJam dbyaṅś bśhad pañi rdo rje* (J), *Sum pa mkhan po* (S), *Tshe tan shabs*
druñ 氏 (T), 『藏漢大辞典』(B), *Duñ dkar blo bzañ hphrin las* 氏 (D) の各年表¹⁰⁾, 及
び *bSod gnam rgya mtsho* 氏 (Sg), *bSod nams don grub* 氏 (Sd) の生卒年人名表（両著作
については注10 拙稿 2008 (平成 20) 年参照）は一致している。また「[[密] 咒者の家系」
とはニンマ派の「家系」を指すであろうし、真偽は別として「幼児の時[に] 金剛小
忿怒[尊] の念誦を為さった」こととも対応し、そして順次に顕教の「学習」も行い、
その後、宗派を問わずに「游学僧を為さった」としている。『藏漢大辞典』によれば
「游学僧」とは「各弁論場に出向いて行ってから疑問を断ずる討論を為す専門家」
としており、J・S・T・B は 1375 年の項でツォンカパ (1357～1419) が「[[波羅蜜多の]
游学僧を」したことをわざわざ記載しており、チベットに於ける仏教学の修習に
於いては重要な意味を持つと言い得るであろう。更に他の師達にもついて、タン
トラの学習をしている。

続けて「それから *Sha* (5/6) *lu[r]* [寺] においでになって上人[たる] *Tsandra pa* と
| 法主[たる] *Tshul rgyal ba* [の] 二方に依止し了って (6/7) から瑜伽の類に精通する
様に学習した | *lHun po rtse[r]* [寺] で *hPhags ḡod* (7/8) *pa* に依止し了って道果 *Lam*
hbras など [の] *Sa skya pa[h]* の法を沢山に聴聞なさった | (8/9) 要略するならばこ
の上人によって *Sa* [と] *Shal* [と] *dGe* [との] 三の密咒に就いてご了解されていない
(9/10) ものは無いのだという話である | 誠修者 *ku su-lu/sā-li* と | 大行者の上
(10/11) 人[に] も沢山に依止し了った | 新[と] 旧[と] の大多数の教授を聴聞な
さった (11/12) 方で有る *gdah* | 成就法と口訣の類に対する品[で] (12/13) 百余り程
の論書をお造りになった | 」とし、最終的に「道果」説を含めたサキャ派とシャル
寺派とゲルク派との「三の密咒に」精通したとし、更に「成就法と口訣の類に対す
る品[で] 百余り程の論書をお造りになった」とする。この著述した「論書」につい
て『目録』と『全集』との対照は既に行った（注5 拙稿参照）けれど見落としがあり、
より整った『目録』も不完全であるとの指摘があり、確かに『目録』の *dza*～*chi* (/ *ci* ?) 帙の十八帙, *tshi* と *zi* 帙の二帙, *tu*～*nu* 帙の四帙, *phu* 帙以下が欠けており¹¹⁾,
残っているのは四十九帙四十作品であることになる。一方『目録』に記載している
資料は、ポタラ宮殿が所蔵していた筆写本であることを明記しており、編纂途中

(86) レーチェン＝クンガーゲルツェン著『カードム法源明灯』考(Ⅱ)(原 田)

で放置することになって帙番号に欠落があるのかもしれないけれど、全集の全体像については全集の末尾に付してあるはずの全集の目録を確認せねばならないであろう。

続けて「最初に lHun po rtse[r][寺]で(13/14)[密]咒の学堂を掌握した| それから sTag la[r]で Gañs chen chos hphel(14/15)の寺院を建立して『金剛鬘[続]』rDo rje hphren ba(北京版 No.82)等[の]灌頂伝承[の]認可 dbaṅ lun rjes gnañ(15/16)の雨を降らした| 続[の]注釈の説示をまた数年[間]lo śas お造りになった(16/17)時期から 67[年目たる](?)乙未 śiñ mo lug(1475)の年に bKra śis lhun po[hi 寺]の(17/18)寺廟(座主)にお出でになった| 」とし、読解できない部分もあるけれど、「[密]咒」の専門家であったことが明らかであり、1475年にタシルンポ寺の座主に就任したとする。就任年については、TBRC(注11参照)と『目録』が癸未(1462)年とし、『全集』の記述と J・S・T・B・D の各年表と、及び Sg の生卒年人名表とが甲午(1474)年とし十二支の一巡分の相違がある。読解できない部分に関わるけれど、1475年の足掛け「67[年]」前は1409年であり、この年にツォンカパはラサの大祈願会ムンラムチェンモを開始し、ガンデン寺を建立しており、翌1410年に上述の如く本人が誕生している。或いは、著者の数え間違いで66年であるべきを67年に数えたのであるとしても「続[の]注釈の説示を」「お造りになった」ことが何を指すのかを説明できないことに変わりはない。またタシルンポ寺は、一説には1450年にガンデン寺座主に就任するよう求めがあったのを断っている一方で、後にドライラマー一世としての位置に列することになるゲンドゥンドゥブ(1391～1474/5)が1447年に建立した寺院であり、彼は初代の座主となっている。従って1474/5年の相違はゲンドゥンドゥブの没年に関わるものであり、伝記を検するまでもなく、彼は生涯タシルンポ寺を中心に活動していたので、遁世 kun spans した記録などの新たな特別の論拠のない限り、存命中に座主職を他に譲り、更に同寺での活動を活発に継続していたとは常識的に考えがたく、状況証拠だけで確実な論拠を提出できないけれど、今のところ1462年説には従いがたい。ゲンドゥンドゥブがチベット暦1474年の年末に亡くなり、チベット暦1475年の年頭に新しい座主が決まったとする伝承もあり、検討を要するであろうので、ここではこれ以上の議論は控え、稿を改めてゲンドゥンドゥブについて検討することとする。また伝記の本文では「Gañs chen chos hphel の寺院」の「建立」を座主に就任する以前とするのに対して、TBRCは『目録』に従って座主に就任した以後としているけれど論拠の明示はいずれにも何もない。

レーチェン＝クンガーゲルツェン著『カーダム法源明灯』考（Ⅱ）（原 田）（87）

続けて「四大困難[論]dkah chen bshi(『中論』,『現觀莊嚴論』,『律』,『俱舍論』)と|道次第 *Lam rim*[と]| *sGron* (18/19) *gsal*[と]等の経[と密]咒[と]を説示し了りそして|『五次第』*Rim lha*(北京版 No.2667, 2677, 2691, 2696～2700, 2702 2705)[と]| (19/20) *Nā ro*[の]六法[と]| 道果[と]等の教授と| *rDo* (20/21) *rje hi hphren ba*[と]|『成就法[の]海』*sGrub thabs rgya mtsho*(北京版 No.4221～4466 ?)¹²⁾[と]等の灌頂[を]認(21/22)可なさって甚深 *zab pa* と廣大 *rgya che ba* [hi と]の法の無辺際のの堆積を(22/23)仰せになった|」とし、顕密の教えと「道果」と、そしてカーダム派からゲルク派に伝わった「甚深と廣大[と]の」「道次第」などに精通したとする。

続けて最後に「[先代の] *Paṇ chen* 一切智者のご遺体をご遺言(808-23/809-1)と一致する様に浄治し了り且つ| 銀の靈塔[で]大宝の(1/2)莊嚴が裝飾した或る希有のものを建立なさって *sGrol dkar lha khañ*(白[救]度[仏母]仏堂)の(2/3)上に廟堂が完成し了る様に為さった| *Byam khañ*(弥勒堂)の(3/4)壁画などをお造りになった未完成部分などが善ろしく完成し了る様に(4/5)為さり了って| 69 歳[の]戊戌 *sa po khyi* [hi] (1478)[の年]の6月の4日に安(5/6)楽にお逝きになった| その時[に]虚空から上[人の]居室 *bla bran* [/grañ ?]の上に蓮花[の](6/7)種々の花卉の花芯に尊者[たる救]度[仏]母のお像[で]本当に(7/8)或る顕明なものも降り了って| 現在も壊れずに所依(仏像)[の]列(8/9)におわしますのである|」と記述して本文を終了しており、この「*Paṇ chen* 一切智者」たる先代の座主であるゲンドゥンドゥップの「遺体を」納める「銀の靈塔」をタシルンポ寺に「建立」し、恐らく1463年にゲンドゥンドゥップが建立した弥勒堂「の壁画」を「完成」させたとする。没年について TBRC は1478/9年とし、『目録』の記述は己亥(1479)年で、『全集』の記述と J・S・T・B の各年表と、及び Sg と Sd の生卒年人名表は1478年とする他に、D の年表は丁酉(1477)年としているけれど論拠は何も明示していない。命日が「6月の4日」である以上は、西暦とチベット暦の年頭の設定時期の相違によって年が一年前後する影響を受けることもなく、空位期間の記述もないので、ここでもタシルンポ寺の第三代座主であるルンリクギャムツォ *Luñ rig rgya mtsho* (1418～1484 以降?) が座主に就任した年が問題となるけれど、一般的には1478年としているので、没年としてもここでは一応1478年としておきたい。座主に就任してから足掛けで3/4年間在位したことになり、前段落以降の活動が決して多岐に渡るとは言い難いのも、在位期間の短さを傍証すると理解したい。

IX. 以上、表題に掲げた資料について概略的な内容紹介を行った上で、タシルンポ寺第二代座主である *bZaṅ po bkra śis* の伝記の内容紹介を行った。この様な作

(88) レーチェン=クンガーゲルツェン著『カーダム法源明灯』考(Ⅱ)(原 田)

業を行ったのは、第一に近年カーダム派関係の多数の資料を中国で複製出版している¹³⁾ので、今後カーダム派の研究が進展する為には、同資料が具体的研究対象の歴史的 position をする基本資料になる筈であるからである。第二に bZaṅ po bkra śis をここで取り上げたのは、たまたま彼の宗義書を読む機会があり(注5 拙稿参照)、それに伴ってパンチェンラマとダライラマの微妙な関係の歴史的 background に興味を持ち、この二制度の成立過程を改めて将来的に少しでも明らかにしたいと考えたからである。この点に関しては何も明らかにならなかったけれど、二制度の成立過程に関わるその他の事項を確認した上で再度読み直して見たいと願っている。

-
- 7) 本稿は拙稿「レーチェン=クンガーゲルツェン著『カーダム法源明灯』考」『印度学仏教学研究』56-2, 日本印度学仏教学会, 東京, 2008(平成20)年, pp.938-945 に継続するものであり, 注記番号も7から開始して前稿に接続する。
- 8) Sa skya 暦3, 631年は丁巳(1497)年に当たり, 羽田野氏(注2参照)が同資料の著作年とする甲寅(1494)年と相違している。この相違は著作開始年と終了年の相違であろう。
- 9) 羽田野氏(注2参照)が指摘する如くダライラマ五世(1617~82)である。
- 10) 各著作については拙稿「チベット仏教史年表(西暦1027~1086, 1087~1146, 1267~1326年)」『[国士舘大学文学部]人文学会紀要』33, 37, 40, 同学会, 東京, 2000(平成12), 2005(平成17), 2008(平成20)年を参照頂きたい。
- 11) TBRC(Tibetan Buddhist Resource Center: tbrc)のbzang po bkra shisの項を参照頂きたい。同項ではNotesの中でDge lugs gsung 'bum: Dates 1410-1479. Bstan rtsis: 1410-1478. Gsung 'bum in 1 volume (manuscript). Copy in the Po-ta-la is missing the following sections: dza-ci, tshi, zi, tu-nu, phu and onwards. 1452: Came to the khri of Mnyan-yod Bya-gshongs and serves for seven years. 1458: Became the Bla-ma Dbu-mdzad of Byang Ngam-ring and taught at Dpal Ya-ga-chos-sding. 1462: Becomes the 2nd Khri of Bkra-shis-lhun-po and serves for 18 years. Founds Gangs-can-chos-'phel Dgon during this period. と記述しており、『目録』とBstan rtsisを論拠としていることを明示している。但し『目録』の記載は上述のNotesの内容が示す如く多くの情報を含んでいるけれども, 論拠を何も明示していない。なおTBRCではチベット仏教電子文献[TBRC No.]W23748として, 版本の『カーダム法源明灯』を, そしてその他にも多数の資料を販売している(日本総代理店: カワチェン kawachen)。一方, 注5 拙稿の中でベンサパを「第三代座主」としたのは, 以下の本文に示す如く明らかに誤りであり, これは「第三代パンチェンラマ」であるべきであるので, 訂正をお願いしたい。
- 12) 西岡祖秀「『プトゥン仏教史』目録部索引」I~III, 『[東京大学文学部]文化交流研究施設研究紀要』1981~3(昭和56~58)年, No.2651を参照頂きたい。
- 13) 第一集(1~30帙)と第二集(31~60帙)の計60冊を既に出版しており, 各集に付属した目録として dPal brtsegs bod yig dpe rñin shib hjug khañ(百慈蔵文古籍研究室)編:

レーチェン=クンガーゲルツェン著『カーダム法源明灯』考（Ⅱ）（原 田） （89）

bKaḥ gdams gsuñ ḥbum phyogs sgrig theṅs dan-poḥi/gñis-paḥi dkar chag bshugs so (『《噶当文集》第一/二次目録』), 四川民族出版社, 成都, 2006, 2007 年がある. また TBRC も復刻版である『チョムデン・リクペー・レルティ 著作集』をチベット仏教電子文献 [TBRC No.] W00EGS1017426 として販売している.

〈キーワード〉 レーチェン=クンガーゲルツェン *Las chen Kun dgaḥ rgyal mtshan*, 『カーダム法源明灯』*bKaḥ gdams chos ḥbyuñ gSal baḥi sgron me*, タシルンポ *bKra śis lhun po* 寺第二代座主, サンポタシ *bZaṅ po bkra śis*
(国士舘大学教授)

掲載されなかった諸氏の発表題目 (2)

新ニヤーヤ学派における表現の簡略化 — “x-vat-tva” と “x” について —
和田 壽弘 (名古屋大学大学院教授)

梵文「法華経」における dharma の用例
西 康友 (中央学術研究所所員・大正大学大学院)

『論理炎論』 *Tarkajvārā* とその著作問題
斎藤 明 (東京大学教授)